



令和3年4月6日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第1号

第1学期始業式 学校長式辞

校長 柿林 浩彦

2年生・3年生の皆さん、進級おめでとうございます。

今日から令和3年度が始まり、皆さんの新しい学年がスタートしました。修了式の時にお話ししましたが、今日、生徒全員が元気に登校できたことをまずはうれしく思います。約2週間の春休みでしたが、家庭学習や部活動、家庭での役割などしっかりできたでしょうか。3月30日には、この体育館に広島交響楽団の皆様が大勢来校され、蒲刈小学校と蒲刈中学校の児童生徒、そして、先生方に素晴らしい演奏をしていただき、本当に感動しました。また、同じ日に、永原洸太くんと菅原響くんが所属する中学生の硬式野球チームである「府中広島‘2000ヤング’」が第29回ヤングリーグ春季大会に出場し全国優勝しました。日頃の練習の成果や持っている力を、緊張する試合で出し切ることは大変難しいことなのですが、見事力を発揮できたことを大変うれしく思います。これからも、決しておごることなく更に自信を付けてほしいと思います。

さて、明日は入学式が行われますが、新入生が11名入学します。また、先程の就任式では新しく6名の先生を紹介しました。更に3名の先生が講師として皆さんに指導していただきます。このように先生方の約半数が異動しました。新しい環境では子どもも大人も期待と不安でいっぱいです。そんなときには、互いに声を掛け合い、助け合ったり、教え合ったりすることで不安を減らし、楽しさを増やしていきましょう。

今年度も先生方は、皆さんの心に寄り添いながら学校生活をもっと充実させたいと思っています。学校では、先生は皆さんの指導者であり、人生の良き



先輩に当たります。これからも沢山のことを教えてくれます。しかし、先生が替わると今までの先生が言っていたことと違うと思うことや場面があると想像しています。しかし、安心してください。なぜなら、話す言葉や内容が違うと思うかもしれませんが、すべての先生は皆さんが成長するために指導しています。つまり、目指す方向は同じなのです。たとえば、ソフトテニスでは、ラケットのグリップを握るとき必要以上に力が入りすぎないように指導します。その時、ある指導者は「小鳥をつかむようにそっと握ること。」と言い、別の指導者は「ポスターを丸めて、ポスターが潰れない程度に握ること」と指導することがあります。このとき、選手はどう思うでしょうか。単純に考えると、指導者によって言うことが違うと思いますね。しかし、どちらも力を入れすぎないようにグリップを握り、インパクトの瞬間に力を入れるように指導しているのです。指導者は、選手の状況に応じて、選手がイメージしやすいように様々な表現を駆使します。

今年度の蒲刈中学校は先生が多く替わりましたが、目指す方向は同じです。生徒の皆さんの成長のために精一杯頑張っ指導したいということです。

その期待に応えるよう、頑張る姿を今年度も沢山見せてくれることを楽しみにしながら今年度をスタートします。

新しく赴任された先生方を紹介します。

教頭	坪浦	敏美	先生	呉市立音戸中学校から
事務長	西本	由紀	先生	呉市立横路中学校から
教諭(国語)	神垣	裕子	先生	呉市立郷原中学校から
教諭(保健体育)	上田	真梨子	先生	新規採用
教諭(社会)	酒井	拓実	先生	臨時採用
養護教諭	松本	明日香	先生	府中町立府中小学校から



よろしくお願いいたします。



左から、酒井教諭、上田教諭、西本事務長、坪浦教頭、神垣教諭、松本養護教諭 です